

【図画工作科 5年生】

堀愛教諭による提案授業「糸のこにチャレンジ」が行われました。初めて糸のこぎりを使う場面で、段ボールを切ることで道具の使い方に慣れ、切った形を生かして班でオリジナルの迷路をつくる授業でした。

授業の前半では、友達の手動きや刃の方向をじっと見つめ、自分が切るときに生かしながら作業をしていました。「丸くするには、手を回した方がいい。」「こっちの向きに動かした方が切りやすい。」など子供たちで教え合う姿が見られました。後半の迷路づくりでは、「ここに橋をつくらう。」など友達と協力しながら、つくりあげる姿が見られました。



図画工作科の授業の様子

分科会では、参加された先生方から、段ボールを扱うことで木を切るよりも抵抗がなく、糸のこぎりの扱い方に慣れさせやすいということや、試しながら切る活動から自分が表したい形をつくる意図的な活動へと変化していく姿を見ることができたといった感想をいただきました。今後は、試す活動が作品にどう生かされていくかなど、次時へのつながりにも着目した授業づくりと指導を考えています。



分科会（図画工作）の様子

【生活科 1年生】

山本紗弓教諭による生活科の授業提案「あきとあそぼう」が行われました。友達と一緒に、見つけた『秋』を使って遊びを作りました。秋の自然物を使った遊びを作る過程で、「今日はどうしよう」「もっとこうしたい」など、一人一人が思いや願いをもつこと、友達と一緒に「試す」「比べる」「見付ける」「予想する」などの学習活動を展開しながら試行錯誤すること、自然物の特徴を生かして遊びを作ろうとすることをねらいとした授業でした。



生活科の授業の様子①

子供たちは、それぞれのグループで「今日はこちらを作ろう」という明確な思いをもち、黙々と活動に取り組んでいました。ドングリが転がる道になるように、試行錯誤しながら筒をつなげてみる姿、マツボックリとドングリで比べ、ドングリの方が考えた遊びに適していると発見した姿、『秋』が楽しめるよう葉っぱで装飾して工夫する姿など、友達と話し合いながら意欲的に遊びを作る姿がたくさん見られました。

分科会では、ご参加いただいた方に、「子供同士が考え、没頭して作る姿は主体的な学びの姿として評価できる」「これまでの経験を生かしている姿に幼児期からの成長を感じた」「幼稚園の友達にとってどうかという視点で遊びを考える姿に驚いた」などの感想をいただきました。

今後は、どのように子供の学びを見取り、評価していくのか、子供の変化を具体的に検証していくことを課題としています。そして、子供の学びが深まる授業づくりを考えていきます。



生活科の授業の様子②